酒類丸中　諏訪アルファ　龍門堂

「信州わざ匠」マークでPR

土産や記念品に付け販売

酒類販売業「酒類丸中」(岡谷市、畑文博社長)と金属主体の総合看板業「諏訪アルファ」(岡谷市、宮沢由紀夫代表)、漆器製造業「龍門堂」(塩尻市、手塚千吉郎社長)の3社は、それぞれが土産や記念品用に開発した信州ならではの商品を22日から、販売開始した。各商品には、信州産をPRするため、新たにデザインされたロゴマーク「信州わざ匠」をつけた。各社は「ロゴマークの信頼度が高まるような良質な商品を提供していきたい」と意気込んでいる。(寺田英祥)

諏訪地方の地酒を組み合わせた酒類丸中の商品

金の蒸着技術を応用した諏訪アルファの商品

3社は、技能五輪全国大会などのイベントを見据えた上で、県地域資源製品開発支援センターや商工会議所などの支援を受け、観光客らの土産となる商品を開発。ロゴマークは「信州が誇る匠の力が伝わるように」と、デザイン事務所がデザインした。ロゴマークは3社で使用する。他社から使用要請があれば「前向きに検討する」という。

酒類丸中は、諏訪地方の酒造場が製造した酒をセット化することに着目。酒造場の異なる3本の酒を組み合わせた「青3本ギフト」、諏訪市のキャラクター「諏訪姫」のフィギュアと地酒をコラボレーションした地域限定商品「諏訪姫ワンカップセット」など五つの商品を用意した。

諏訪アルファは、同社の持つ金属加工技術や金の蒸着技術を応用。諏訪地方ののり問屋から仕入れたのりを素材にした「金を食べる金箔のり」、岡谷産の絹不織布に純金コーティングを施した「岡谷絹と金」など、地元産業を活用した四つの商品を用意した。

長野日報　2012年9月23日

酒類丸中
諏訪アルファ
龍門堂

共通マーク「信州わざ匠」考案

商品売り込み図る

「信州わざ匠」の共通マークを付けた漆器(手前)や日本酒など

酒類卸の酒類丸中(岡谷市)、金属加工の諏訪アルファ(同)、漆器製造の龍門堂(塩尻市)は共同で、各社の土産品や贈答品などに付ける共通マーク「信州わざ匠」を考案し、22日に商品を発売する。土産物売り場などで自立つようにし、他の商品との差異化を図る。

3社は経済産業省の中小企業支援事業で知り合い、県地域資源製品開発支援センター(松本市)に協力を依頼するなどして共通マークを作った。

酒類丸中は、諏訪地方の酒蔵の大吟醸をきり箱に入れた商品や、日本酒の詰め合わせなどのオリジナル商品を新たに販売する。諏訪アルファは、金の蒸着技術を応用し、地元産の絹の不織布に純金をコーティングしたカードなどを考案。龍門堂は、食洗機でも洗えるように耐久性を高めた既存の漆器のシリーズなどに共通マークを付ける。

3社は21日、県庁で会見し製品を発表。共通マークは信州らしさと職人技が伝わるようなデザインにしたと説明。酒類丸中の畑文博社長は「これまでは酒造会社の製品を販売するだけだったが、地元の蔵元の高い品質の酒を新たな形で売っていきたい」と話している。各社とも品ぞろえを充実させ、マークを使用する会社も増やしたい考えだ。

同センターの鈴木進・製品開発総合プロデューサーは「共通マークで信州のブランドづくりを進めていきたい」と話した。

信濃毎日新聞　2012年9月22日

会社・お店トピックス Weekly Information

「信州わざ匠」のロゴ付きで

岡谷市内の2社が商品開発

新商品

酒類卸の酒類丸中(岡谷市畑町2)と畑文博社長)と金属主体の総合看板業、諏訪アルファ(岡谷市塚ノ内2、宮沢由紀夫代表)は、信州産をPRする新たなロゴマーク「信州わざ匠」を付け、新商品の販売を始めた。両社とも県地域資源製品開発支援センターや商工会議所などの支援を受け商品開発した。

各醸造所の酒をセットしたギフト

酒類丸中

酒類丸中は、10年以上熟成した高級酒を小分けしたり、諏訪地方の酒造会社が製造した酒をセットで販売することに着目。醸造所が異なる300㍉3本を組み合わせた「青3本ギフト」(3150円)、200㍉5本の「贅沢5本ギフト」(5250円)、日本酒そば焼酎「みんから1ば36度」(700㍉、1575円)、諏訪市のキャラクター「諏訪姫」のフィギュアと地酒をコラボレーションした地域限定商品「諏訪姫ワンカップセット」(1800円、1260円)、諏訪地域オリジナル地ビール「SHIWAHIME」(330㍉5円)などを限定で用意した。

そのほか、10年熟成の高級酒300㍉を小分けした大吟醸ギフト(300㍉、1575円)、諏訪市のキャラクター「諏訪姫」のフィギュアと地酒をコラボレーションした地域限定商品「諏訪姫ワンカップセット」(1800円、1260円)などを限定で用意した。

各種銘柄をセットにしたギフトなどを限定販売

金の蒸着技術生かしたのりや絹不織布

諏訪アルファ

諏訪アルファは、同社の金属加工技術や金の蒸着技術を応用し開発した。

金箔を施した商品や金の名刺など

諏訪地方ののり問屋から仕入れたのりを金箔(きんぱく)でサインし、ラミネートパックに入れ長期保存可能にした食用の「金を食べる金箔のり」(50円)、岡谷産絹不織布に純金をコーティングし「匠たくみ」をデザインした「岡谷絹と金」(700円)、名刺サイズの岡谷産絹不織布に純金コーティングをし、スクリーン印刷でつくった「金の名刺」(5枚桐箱入り8千円)など4種類がある。インターネットで販売を開始している。

問い合わせは、同社(電0266・23・6422)へ。

市民新聞　2012年9月30日

末代まで光ります

岡谷の企業、金の名刺発売

岡谷市の看板製造業「諏訪アルファ」が純金を使った「金の名刺」を作った。桐箱に5枚入りで8千円と高価だが、宮沢由紀夫代表(72)は「末代まで光ります。人生でお世話になった人に」と話す。

1973年創業の同社は、学校の校章や表札、看板などを手がける。

今回、県内の技術や素材を生かしたお土産や記念品を作ろうと、県地域資源製品開発支援センターなどの協力を得て開発。岡谷産の絹不織布に純金をコーティングした名刺を作った。

問い合わせは同社(0266・23・6422)へ。(浅野有美)

朝日新聞　2012年10月2日

"信州の匠"を発信

お土産商品新開発

岡谷などの3社

岡谷市の看板製造会社「諏訪アルファ」など三社は、金箔を食用のりに張り付けたカードなど=写真、共通ブランド「信州わざ匠」マークを使ったお土産用商品の販売を始めた。

販売を始めたのは諏訪アルファと、酒卸会社「酒類丸中」(岡谷市)、家具製造販売の「龍門堂」(塩尻市)。それぞれ、イベントやスポーツ大会などで県外から来た人向けの商品を新開発。共通ブランドを施して発信力を強化する。

諏訪アルファが開発したのは、看板の製造技術を応用した金箔のり(税込み五百円)。受注生産で、パック加工のため保存もできる。

酒類丸中は、諏訪の地酒二種類を三百ミリリットルずつ詰めたギフトセット(税込み三千百五十円)や、地元キャラクターをあしらった地ビールなど五商品を販売。龍門堂は、木曽ヒノキを使った漆器セットを売り出す。

問い合わせは、諏訪アルファ=電0266(23)6422、酒類丸中=電0266(23)

中日新聞　2012年10月4日